

これからの障害・難病・医療を考える懇談会 **学習会**

# 北欧からみた日本の医療・福祉「一体改革」

～「施設から居宅へ」のあるべき姿とは

講演 日本福祉大学教授 **訓 覇 法 子** 先生

日時 2012年1月14日(土) 午後1時30分～4時

会場 大阪府保険医協会  
M&Dホール

会場案内



所在地 〒556-0021

大阪市浪速区幸町1-2-33 TEL: 06-6568-7721

地下鉄各線「なんば」 JR線「JR難波」

近鉄・阪神線「大阪難波」下車

道順 26A出口を上がり、リバープレース前へ。

そのまま進行し、「富永病院」を左に見て「湊町西」

交差点を右折。突き当たり左。

参加費無料

2012年4月は社会保障と税の一体改革による制度「改革」の名の下に介護保険の全面見直し、医療保険の報酬改定、新しい障害者自立支援法などが実施されようとしています。そのなかで、医療と福祉については「施設から居宅へ」をスローガンに、高齢者住宅に代表される脱施設と在宅誘導の施策が進行しています。

すでに福祉先進国といわれる北欧では、高齢者領域も障害者領域も施設解体による住宅政策への移行が1990年代に完成しました。在宅で、地域で普通に暮らすこと自体は結構なことですが、日本ではスローガンは同じでも全く「似て非なる」在宅推進へと向かっています。どこがどう異なるのか？

ストックホルム大学研究員として、また日本福祉大学教授として両方の国の福祉政策に精通されている訓覇法子先生の講演をいただく機会を得ました。表題のごとく「あるべき姿」を見極め、これからの運動をすすめる糧にしたいと存じます。関係各位の皆さまお誘い合わせのうえご参加ください。

この懇談会は、2006年に「疾患別リハビリテーション」への制度改定のもと、障害者が維持期リハビリから押し出され、難病患者とともに医療の谷間で同じ境遇にある当事者の運動が高まり、医師も加わって一緒に事態を打開するための懇談会を開いてきました。

主催 **これからの障害・難病・医療を考える懇談会**

代表 坂口 道倫 (大阪府保険医協会副理事長)

連絡先 **大阪府保険医協会** (組織部)

〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-33

電話 06-6568-7721 ファクス 06-6568-2389